

学びを力に、健康に対する意識づけの浸透を目指す

株式会社 山田養蜂場 管理部 人事室

看護師

堀江 宏美さん



「ひとりの人のために」を創業の精神に掲げる株式会社 山田養蜂場。健康管理に対する関心の高さは「社員は健康のプロであれ」という理念に示されている。看護師として20年の経験を持つ堀江宏美さんは、産業看護職という新天地で丸2年を過ごしてきたが、戸惑いながらも少しずつ手ごたえを感じ始めている。

推進センターの存在に支えられ

岡山県の北部、中国山地の山あいの町、鏡野町の豊かな緑に囲まれた株式会社 山田養蜂場は、ローヤルゼリーをはじめ、はちみつ製品の製造でその名を広く知られている。堀江宏美さんは、平成21年の夏、「社員全員の心身の健康を守ってほしい」と、医療職としての資格を期待されて入社した。

「心身両面ということになると、身体の方は看護師の経験から多少の自信はありましたが、メンタル面では医学的な基礎知識以外持ちあわせていませんでした。配属された人事室の上司と相談しながら、他社の取り組みと自社の到達点を比較検討することから始めました」。

ここからが堀江さんの真骨頂といえるだろうか。比較検討の結果、自社で取り組むべき課題も見えてきたが、その解決方法が分からなかったため岡山産業保健推進センターに開設されたばかりの「メンタルヘルス対策支援センター」へアプローチ、指導員を紹介してもらい指導を仰いだ。会社からの学びの姿勢に対する支援に助けられ、推進センター主催の研修会やセミナー、講演会にできる限り参加した。鏡野町から県中央にある推進センターまで電車で行けば1時間半はかかる距離を、終業後車を飛ばして駆けつけた。「困ったときには推進センターです。それは今でも変わりません」と屈託がない。

予防の大切さを地道に伝えていきたい

山田養蜂場は全国的に名を知られていることで、県外からも就職希望者が多く、社員寮も充実している。しかし、

慣れない土地での新生活は、心身や生活のバランスを崩しやすい。そこで、去年は寮の入

居者と新入社員を対象に外部の臨床心理士による面談を実施した。後日アンケートをとったところ「次の新入社員たちにも是非続けてほしい」という声が圧倒的であった。研修期間中の新入社員に対し、配属前の面談によって適性を把握することができ、メンタルヘルス不調者の窓口になることもできた。外部相談窓口と並行して社内での相談窓口も開設。机と椅子を用意しただけであったが、相談者本人だけではなく管理職から部下の相談を受けるようになった。

全社員対象のメンタルヘルス研修会も管理職以外で初めて開催した。「メンタルヘルスってなんだろう」と基礎的な話から入って、精神面の疲労やリフレッシュを中心とした15分の研修会を6回実施。外部講師の講習も組み合わせた。自ら講師を担当したときには、多くの研修会に参加してきたことが力になった。

「メンタルヘルスで大切なことは精神の健康の大切さに一人ひとりが気づくことです。少しずつですが社員の意識が変わってきました。当社研究機関『みつばち健康科学研究所』では、予防医学に力を入れた研究を行っていますが、私自身がいろいろ学ぶ中で、社員の心身の健康対策はこの予防医学という考え方に沿っていけばいいのだと思うようになりました」。

その予防医学の精神に立って、心身の健康の予防に最善を尽くすとともに、今後の課題としては休業前から復職後の就業をきちんとフォローできる復職支援制度の構築を挙げる。

また、通信販売で急激な発展を遂げた会社は、今後店舗展開にも力をいれていくということもあり、「本社から遠く離れた場所で働く社員の健康管理を模索中です。お手本はきっとどこかにあります」と堀江さん。産業看護職3年目への力強い一歩を踏み出す。

会社概要

株式会社 山田養蜂場
設立：昭和23年
グループ従業員数：約850人
所在地：岡山県苫田郡